美 術 科 指 導 案

実　施　日　　平成 22 年 10 月 20 日
実施クラス　　１年２組
授　業　者　　畝 村 明 男

1　題材名　　木版画《年賀版画の制作》

2　題材設定の理由

日本の伝統文化でもあり、慣例となっている年賀状は、生活の中に美術を愛好する心情を育ませる上で極めて適当な題材と考える。その鑑賞と自らの作品制作を通し、木版画のよさや美しさを味わい、感じ取ってもらいたい。

また、木版画は絵画ではあるが、中学校において新たに多版多色刷りに取り組ませ、その中で、今まで殆ど活用したことのない切り出し刀を使わせ、その扱いを学ばせることは、先にレリーフなどの彫刻や木材を使った工芸作品作りを行うにも、良い経験になると考える。

3　題材の指導目標　　A 表現（３）ア、イ　　B 鑑賞（１）ア、ウ

・材料や用具、表現方法の特性から制作順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現する。
・作品から日本の文化を感じ取り、心豊かに生きることと美術のかかわりに関心を持つ。

4　題材の指導計画（９時間扱い）

第１時	期末テストにて、下絵の作成　条件：太く描く、文字は四字熟語まで
第２時（本時）	木版画の種類と方法の説明 木版画、年賀版画の鑑賞、文字の持つ意味（言語活動の充実） 下絵の返却・確認、作業（版木への転写、下絵の描き直し等）
第３時	彫刻刀の扱い方の説明、下絵の確認、作業（版木への転写、彫り）
第４時～第７時	作業（彫り）
第８時	刷り方の説明、作業（刷り）
第９時	作業（刷り） 校内年賀版画コンクールの実施

5　題材の評価

（１）Ｂ評価
・木版の種類と方法が理解できる。（進度表、期末テストから）
・版による、多様な表現のよさや美しさを感じ取り、生かすことができる。（作品）
・意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身につけ、表現することができる。（観察、作品）
・時間内に目標とする作業は終えられる。（進度表、作品）

（２）支援を必要とする生徒（Ｃ評価）への手立て
・進度差が出にくいように、予め期末テストにおいて下絵を作成させる。
・下絵の事前チェックと朱書きで、その後の作業を分かり易くさせる。
・机間指導による個別指導を行う。

6　授業改善のポイント

（１）研究主題との関わり
・生活の中に息づく美術を感じ取り、日々の生活を豊かにする上での大切さを知る。
・主体的に創意工夫をしていく力をつけることで、生きる力をはぐくむ。

（２）授業評価の結果分析をふまえて
個別の質問の応答に時間がかかり、順番待ちで質問をしづらい状況に対し、机間指導等で声かけをまめに行い、生徒の疑問や質問に答えられるようにする。予め下絵を提出させ、問題点、改善点を朱書きしておく。

（３）「言語活動の充実」の観点から
年賀状に使われる言葉（熟語）の持つ意味とイメージ、美しさを理解し、作品の中に取り入れる。

7　本時の授業

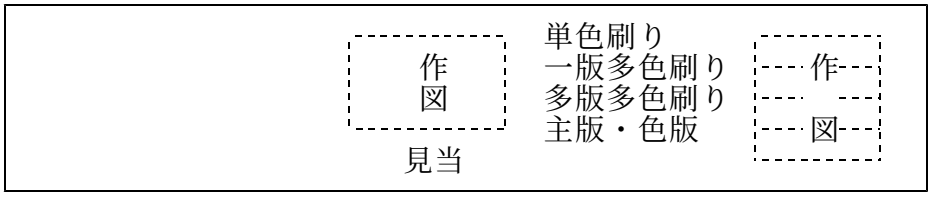
（１）本時のねらい

・木版画の種類や特色と制作の手順を理解する。
・文字の持つイメージや美しさを理解し、版に生かす。
・トレーシングペーパー、版木に下絵を写す。

（２）本時の展開

	学　習　内　容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点（■評価）
導入 5分	・本時及び今後の授業の流れ確認。	・本時の目標説明 ・なぜ、期末テストに条件があったのか？	・進度表の記入。 ・期末テストでどんな条件があったかを思い出している。 ・条件を答える。	・進度表配布。 ■進度表を記入しているか。（関心、意欲、態度） ■話を聞き答えようとしているか。
展開 40分	・単色刷り、一版多色刷りと多版多色刷りでは、版の数が違うことを知る（１５分） ・参考作品を見てどんな刷りの方法を行っているかを確認する。（１０分） ・作業 下絵をﾄﾚｰｼﾝｸﾞﾍﾟｰﾊﾟｰに移し版木に写す ＮＧの生徒は下絵を考え直す。（１５分）	・木版画の種類の説明。 版の数の違い。 それぞれの特徴。 ・参考作品を見せ具体的に種類の違いを認識させる。 ・文字の意味やイメージについて ・版木への写し方について説明。 ・机間指導でアドバイス。	・しっかり話を聞き、質問の問に答える。 ・版の数、種類を答える。 ・作品を見て質問の問に答える。 ・版の種類を答える。 ・文字の印象を答える ・ＯＫが出された生徒は夢中で作業をしている。 ・ＮＧの生徒は、多少躊躇している。	・板書。 ■版の種類の違いが理解できたか。（創造的な技能） ・参考作品掲示。 ■版の種類の違いが作品に与える影響を感じられたか。（鑑賞の能力）（創造的な技能） ・下絵、ﾄﾚｰｼﾝｸﾞﾍﾟｰﾊﾟｰ カーボン紙配布。 ■手順を理解し、楽しく作業することができたか。（創造的な技能） ・ＮＧの生徒は下絵が宿題となる事を確認 NG の生徒(発想や構想の能力)
まとめ 5分	・制作過程の確認。 ・宿題の確認。	・完成までの流れ確認。 ・次回の持ち物確認	・進度表の記入。	■次回に向けての計画を考えられているか。（関心、意欲、態度） ・ＯＫの生徒も宿題 下絵をﾄﾚｰｼﾝｸﾞﾍﾟｰﾊﾟｰに写す。 ・進度表回収

8　本時の板書計画



9　授業を終えて

今回、おおよその条件を付けて下絵を期末テストで描かせたので、本時においては、木版の種類、作業の方法・手順確認に絞り授業を進めることができた。しかし、他の作品の鑑賞や文字の持つ意味については、作業を急ぐあまり、詳しく説明できなかった。授業改善のポイントとした点について、もう少し時間を割き、授業を工夫していくことで、生徒がより主体的に取り組むことができるように指導していく。